

5 付録

5-1 日本製紙グループ環境目標2030の進捗・取り組み状況(2025年度実績)

目 標			進捗・取り組み状況
1.温室効果ガス 排出量を削減する	燃料転換と 省エネルギー対策で 温室効果ガスを削減する	直接排出する温室効果ガス排出量を2013年度比で54%削減する。 ^{※1}	温室効果ガス排出量(Scope1+2)は、2013年度比で43%削減となった(進捗率 80%)。
		燃料転換を加速し、使用エネルギーにおける非化石エネルギー比率を60%以上にする。	使用エネルギーにおける非化石エネルギー 比率は42%となった(進捗率 70%)。
		生産および物流における総エネルギー原単位を前年比1%改善する。	日本製紙 生産工程の総エネルギー原単位:洋紙0.2%減、板紙0.4%減 物流工程の総エネルギー原単位:2.8%増
		モーダルシフト化の推進等により、紙・板紙事業における国内製品輸送時の 温室効果ガス排出量を2020年度比で23%削減する。 ^{※2}	日本製紙の紙・板紙事業 国内製品輸送時の温室効果ガス排出量は、2020年度比で15%削減となった(進捗率 66%)。
		ステークホルダーとの協働により、間接排出する温室効果ガスを削減する。	国内紙/パルプ主要企業のScope3を算定し、効率的な削減が可能なカテゴリーの抽出を行い、 削減対策の検討に着手した。
2.資源の創出と 循環利用を促進する	森林資源の保護育成と 生物多様性に配慮した 森林経営を推進する	海外植林においてCO ₂ 固定効率を2013年比で30%向上する。	ブラジルAMCEL社においてCO ₂ 固定効率の指標としているチップ生産性は2013年度比で 25%向上した。
		国内外全ての自社林で森林認証を取得・維持する。	日本製紙および海外植林事業会社の自社林全面積での森林認証FM(FSC® ^{※3} 、PEFC、SGEC) 取得を維持している。
		使用する全ての木質バイオマス資源のトレーサビリティを確保し、持続可能性を確認する。	森林認証制度の活用などにより持続可能性の確認・トレーサビリティの充実を図り、 2025年度に使用した製紙原料チップ・パルプは、全てFSC® ^{※4} またはPEFCに認められた材 (管理材、管理木材含む)となっている。
		国内森林資源の活用を推進する。	日本製紙全工場における国産材利用率は、36.6%となった。
	資源の循環利用を 促進する	資源の循環を促進するリサイクルシステムの構築に取り組む。	古紙禁忌品であるラミネート紙を使った難利用紙製品のリサイクルスキームを当社顧客の 加工メーカーなどと協働して構築中。 各地の地方自治体と協議しながら、紙廃棄物の独自収集ルートを整え、剥離紙、飲料紙コップ などの再資源化実績を着実に積み上げている。
3.環境負荷を 低減する	製造工程で発生する 環境負荷を削減する	2018年度比で、大気汚染物質を15%、水質汚濁物質を15%削減する。	国内生産拠点における削減率はSOx 49%、NOx 25%、ばいじん 25%、COD/BOD 32%、 SS 24%となった。
		国内生産拠点における産業廃棄物の最終処分量を2%以下にする。	国内生産拠点における産業廃棄物の最終処分量は1.6%となった。
		ライフサイクル全体で環境影響の少ない製品・サービスを社会に提供する。	顧客と共同で、国産材の活用や新しいバイオマス素材の評価を進めている。

※1 エネルギー事業分野を除く製造に関わる排出

※2 日本製紙を対象

※3 FSC®ライセンスNo.FSC® C023383 (AMCEL社:ブラジル)

※4 FSC®ライセンスNo.FSC® C001751 (日本製紙)